

学び
つながり
支えあう

ドキュメンタリー映画

種まきうさぎ

フクシマに向き合う青春

「ワーカーズ」「かすかな光へ」「こんばんは」
「渡り川」「ピキニの海は忘れない」

森 康行 監督作品

ナレーション 大竹しのぶ

2011年、原発事故の被災地・福島の高校生たちが
東日本大震災と福島の姿を知ってほしいと
全国の高校生・若者に呼びかけた。
ピキニ事件の調査学習、マーシャルでの出会い、
福島の農民、漁師たちの大地・海への想い——
核の時代に生きる若者たちのいまを描く。

製作・著作：種まきうさぎ製作委員会 | 撮影：野間 健・西島 房宏・川越 道彦
マーシャル諸島撮影：藍原 寛子 (Japan Perspective News) | 音楽：浦木 正志
音響効果：八重樫 健二 | 編集：古賀 陽一 | 運営：松崎 頼行・吉田 正美
企画：山下 正寿・斎藤 毅 | 2015年 | 日本 | 87分 | ドキュメンタリー

www.tanemakiusagi.net

illustration 荒木 直子





それは福島の高校生の朗読グループから始まった。

2011年、

東日本大震災と福島第一原子力発電所の

事故の現状を知ってもらおうと、

福島の高校生の朗読グループ『たねまきうさぎ』が作られました。

このグループは、全国各地の高校生や若者たちと交流し、

世界の核被害と向き合う人々とも出会いながら学んでいきます。

東日本大震災

ピキニ事件

故郷の大地・海

原発事故

放射線被災

命と健康

「サバイバー」
困難を切り開いて
生き抜く人

「たねまきうさぎ」のメンバーはマーシャル諸島へも訪れる。60年間も放射能と闘い続けているマーシャルの人々。

彼らは語ってくれた。「我々は何もできない核被害者ではない。そして続けた。「我々はサバイバーである」と。

サバイバー……どんな困難でも切り開いて生き抜く。60年、核被災と闘い続けたマーシャルの人々の生き方から学び、今後どのように生きていったら良いのかー福島若者たちは勇気づけられます。



平和を学び、
平和を築く若者たち

「たねまきうさぎ」のよびかけに応じて、全国各地で核と平和を学ぶ高校生・若者が福島に集まります。

そこには広島に留学中の、旧ソ連の水爆実験地であったカザフスタン出身の少女も参加しています。いままでもあまり描かれてこなかった映像を交え、若者たちの交流を描いていきます。

そして、今なお汚染水に苦しむ漁師や、放射能に土地を奪われた農民の姿などを追っていくなか、若者たちの平和の種まきが広がり、平和の種が芽生えていきます。